

Mai Way通信



君たちは（病室で）
どう生きるか

七月号 『入院』

もくじ

〈はじめに〉

事故の経過を辿ってみよう！

〈エッセイ？〉

人間万事塞翁がイケメン研修医

〈写真集〉

宇宙を漂う病院食

〈マイからの贈り物〉

入院の心得3つ

〈おわりに〉

「あなたは誰かの大切な人」

この度は本当に多くの方にご心配・ご迷惑をおかけいたしました。

この場を持ってお詫びしつつ、心からの感謝も、笑顔全開でお伝えいたします。

本当にありがとうございました。

ありがとう



〈はじめに〉

\\ 事故の経過を辿ろう！ //

START

6月16日 PM5時半

! 事故発生 !

山道でのハンドルミス。痛恨。



PM6時



救急搬送



PM10時



! 足がパンパンに腫れる !



右膝の挫滅創→

局部麻酔で患部を消毒

3針縫って歩いて帰る



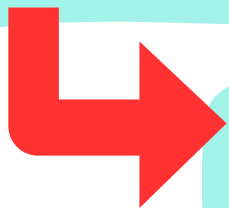
6月19日(月)

診察→即入院

細菌感染による蜂窩織炎

計32日間

! 入院 !



7月4日(火)

足の治りが遅く→転院

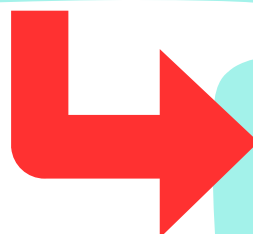
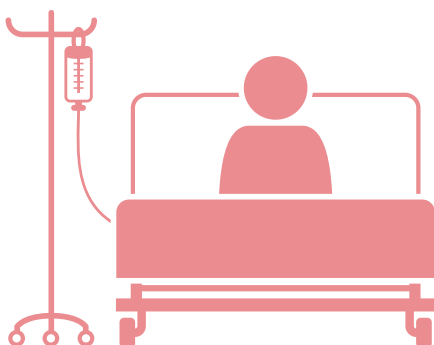
難治性皮膚潰瘍



7月21日(金)

祝 退院!!

愛知で通院



人間万事塞翁がイケメン研修医

退院間際、入院初日からつけていた日記を見返していた。

パラパラとページをめくると、入院一週間ほど経った頃、日記に「死にたい」と書いてあった。ホルモンバランスが乱れていたこと、病院に慣れて自分の現実と向き合わざるを得なくなったこと、腫れすぎて曲がらない膝への不安なども入り混じった、ずっしりとした「死にたい」だった。その時の気持ちを思い出し、涙が出そうになる。

恐る恐る次の日へとページを進めると、そこには

「研修医が来た！よく笑う、気だるい顔のイケメンだった！明日も来るらしい！楽しみ！！」と強めの筆圧で意気揚々と書き記されていた。

「いや、昨日死にたがってたやん！！」と数週間前の私に私が突っ込む。

でも確かに、そうだった。26歳のよく笑う、眼瞼下垂のイケメンがきて、死にたい気持ちなんかどうでも良くなったんだ。明日が来るのが楽しみで、心躍らせてたんだ。24時間を一枚の紙で行き来している私は自分に戸惑っていた。

そのさらに翌日の日記には「研修医なのに既婚だった、ガン」と全力で落ち込む私があった。もう、自分があまりにも滑稽で、病院のベッドで一人、心の底から笑った。

でもこれって案外いい教訓かも。「そんなに長くは続かない。いいことも悪いこともね。」



① 「人は生きているだけで価値がある」 と心に留めよう！【重要】

→例えば寝たきりの人間は生きる価値がない？

そんなわけあるかー！！！！！！

生産性に考えが毒されていないか、この機会に確認！

② 写経をしよう！！



→入院中は時間がたつぷり。

「考えなくてもいいこと」を考えすぎたときに、人は病む。

手が動かせるなら、落ち込みそうになったタイミングで

ひたすら何か、書き続けるのがおすすめ。

不安も恐怖もペン先に流して、頭を少し休ませてあげて。

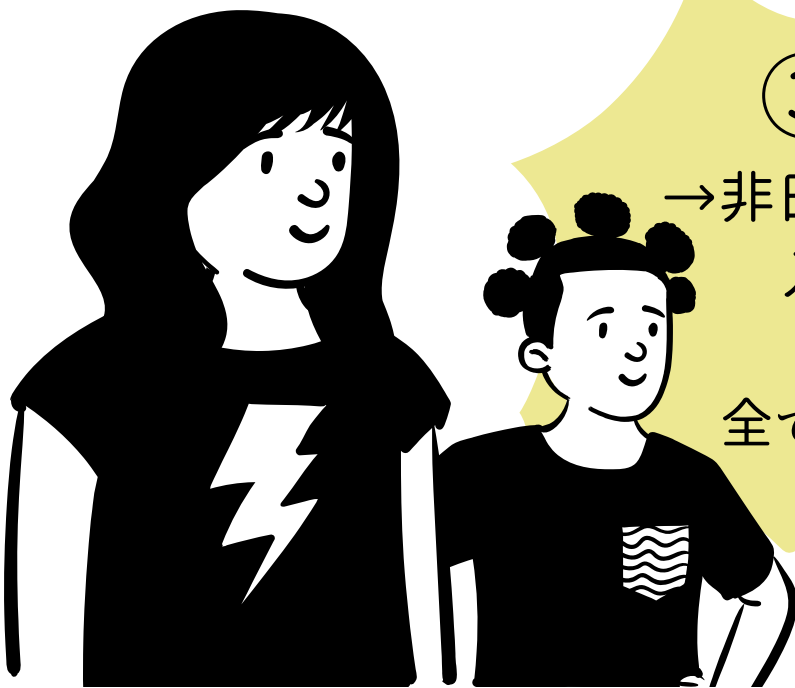
③ 日記をつけよう

→非日常の中の「自分」を残そう。

入院生活も、辛い毎日も、

文字に起こせば

全てが脚本になり、物語になる。



〈おわりに〉

「あなたは誰かの大切な人」

転院して二週間が経った頃、共働きの親が
熊本の赤十字病院までやってきた。
母親に関しては九州初上陸。

感染対策のため危篤でもない面会許可は降りず、
結局荷物を看護師さんに手渡してもらうだけに。

申し訳ないなと思っていたら、
心優しい看護師さんがドア越しの面会を許可してくれた。

4月、大企業への内定を自分勝手に蹴り
「風になりたい」と言ってプチ放浪に出た私は、母とも
実家とも疎遠になりかけていた。

親の心子知らずを体現したような娘から「事故った」と
連絡を受けた母は「生きてて良かった」と
何よりもまず、そう言った。

何この兄？



2000年5月、マイ2歳。岐阜県の祖父母宅にて

「自分の命より大切なもの」
ガラス越しに私を見つめる母を見て、
私は母の「それ」だったのだと思い知る。

馬鹿な娘でごめんなさい。
きっと本当の意味で貴方を理解できるのはもっと先。
私にそれが、生まれた時になるのでしょうか。

ただ、今回“自分は誰かの大切な人なんだ”
と知った時、私は事故して良かったとすら思ってしまった。
私はどうにも嬉しくなった。

これを読むあなたにも、たまに何気なく思い出してほしい。

「あなたは、誰かの大切な人」



心が温まって
自然とお腹が空いてくる
そんな素敵な短編集。
ぜひ！

オススメです

最後まで読んでくださり、
ありがとうございます。

辛いことも、楽しいことも
言葉の力を信じて
全て面白がっていただけたらな、
と思います。

不束者の私ですが
生涯よろしく申し上げます。

それでは、また来月！！

